

令和5(2023)年10月
一般社団法人日本学校教育相談学会
会 長 春日井 敏之
研修委員長 会沢 信彦

一般社団法人日本学校教育相談学会第34回「中央研修会」開催案内 <ZOOM開催>

主 催 一般社団法人日本学校教育相談学会
主 管 一般社団法人日本学校教育相談学会研修委員会
日 時 令和6(2024)年1月21日(日)
【午前の部】コース別講座 9:30~12:30(入室開始 9:00~)
【午後の部】パネルディスカッション 13:30~16:30(入室開始 13:00~)
【交 流 会】オンライン交流会 17:00~18:00
実施方法 リアルタイムオンライン(Zoom)
定 員 【午前の部】各講座 80名(先着順)
【午後の部】300名(先着順)
そ の 他 参加者には研修修了証を発行します。

----- プ ロ グ ラ ム -----

午前の部 コース別講座 9:30~12:30 【各コース 定員 80名(先着順)】

A コース 「発達に偏りのある子どもの不登校支援」

講師 田中 康雄 氏(こころとそだちのクリニックむすびめ院長)

講師メッセージ

学校現場では常に、何かしらの理由(それがよくわからないこともふくめ)で、登校しない・できない子どもたちに、どう関わりをもてばよいか、悩まれていると思います。

不登校という結果行動にたいして、そこに至る思いは百人百様かと思えます。今回の研修会では、まず不登校という行動と、そこに至る思いについて広く考えてみたいと思います。そして次に、「発達に偏りのある子ども」について考えてみたいと思います。まず「発達に偏りがある」ということはどういったことか、この言葉はこういったときに登場するものかについて考えたいと思います。そして、ある一定の枠で括られた子どもが「不登校」に至る過程を、これも百人百様かと思えますが、考えてみたいと思います。そのうえで、そこに至る普遍的、一般的な対応、応援、支援のあり方について、そしてその枠で括られた子どもに対して、なにかより丁寧な配慮が必要だとしたら、それはどういったことか、それを考えたうえで、その丁寧な対応、応援、支援のあり方について、考えてみたいと思います。特に、子どもたちが充実した(学校)生活を送るために必要な信頼関係の築き方と、その子どもたちに、こういった思いで向き合うべきか、「日本学校教育相談学会」への期待をお伝えできればと思っています。

B コース 「認知行動療法による不登校支援」

講師 神村 栄一 氏(新潟大学教授)

講師メッセージ

平成 25 年度以降令和 3 年度まで 9 年連続で、不登校の出現率は前年度を上回っている。この間、中学生で約 2 倍、小学生で 4 倍強にまで増えた。「令和型不登校」である。中学生不登校の 2 人にひとり、小学生不登校の 4 人のうち 3 人は、10 年早く生まれていたら不登校を経験してなかった。「過去にも多い欠席」「家庭内に不登校」「好き嫌いの激しさ」「睡眠に良くない習慣」などが不登校リスクになっている。このようなリスクが高い子、休みがちな子、すでに休みが多いものの進学や就職を目指す子、社交不安や強迫症、嗜癖(依存)の問題も抱えている子、発達特性上の困難をかかえた高校から専門学校生や大学生の不登校の方などへの、認知行動療法による支援について実践的に解説する。「自己肯定感の低さ」などを強調してもしばしば解決解消までは遠い。「行動活性化」や「エクスポージャー」など、目に見える効果が期待される行動技法を中心に紹介する。

C コース 「スクールソーシャルワークの立場からの不登校支援」

講師 安永 千里 氏(横浜国立大学附属学校スクールソーシャルワーカー)

講師メッセージ

「不登校は年々増加傾向にある」と言われて久しくなります。不登校支援は喫緊の課題ではあると認識されているものの、児童虐待やいじめ問題と比べるとどこかゆっくりになりがちであったり、特に、不登校の理由が周囲だけでなく本人もよくわからない、という場合は、どのように支援していったらよいのかわからないまま時間だけが経ってしまう、ということも少なくない現状があるのではないかと思います。「不登校」という扉をノックした時、そこにどんな事情や思いがあるのか。そして、それぞれに合ったゴールをどう設定し、そのために具体的にどのようにしていくのか。教職員やスクールカウンセラーと協働しつつ、ソーシャルワークの視点と技術で「こどもの最善の利益」のためにどう動いていくのか。これまでの事例もまじえながら、スクールソーシャルワーカーの立場からの不登校支援についてお話させていただきます。

D コース 「不登校経験者が考える不登校支援のポイント」

講師 村山 大樹 氏(帝京平成大学専任講師)

講師メッセージ

令和 3 年度の不登校児童生徒数は約 24.5 万人と過去最多となり、このうち支援を受けられていない子どもが約 9 万人いることも明らかとなりました。国は、様々な施策を打ち出していますが、今まさに不登校で苦しんでいる子どもや保護者、その支援に悩んでいる方々が多くいるのも現状です。

本研修では、①研究者の視点、②支援者の視点、そして③元当事者の視点を掛け合わせ、ICT の活用など時代の変化も踏まえた不登校支援の要点(例えば、ICT 活用時の「タブレットの共視による心地よい距離感」や「講師があえて顔出ししない映像教材」といった当事者ならではの支援のポイント)と、社会的自立の意味に迫っていきます。また、様々な立場・専門性を持つみなさまとの対話を通じて、今後の不登校支援を考えていきます。不登校の子どもとの関わりに困っている、支援者としての自分の在り方に悩んでいる先生方にも、少しでもお役に立つ時間になれば幸いです。

午後の部

パネルディスカッション

13:30～16:30

【定員 300名(先着順)】

※会場からの映像配信となります。

テーマ いま、改めて不登校支援を考える

【パネリスト】

宮古 紀宏 氏(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官)

「生徒指導提要」と不登校支援」

山本 志織 氏(さいたま市教育委員会指導2課生徒指導対策係主席指導主事兼係長)

「行政による不登校支援」

中林 浩子 氏(下関市立大学教授)

「学校現場での不登校支援」

鎌倉 賢哉 氏(特定非営利活動法人越谷らるご理事長)

「フリースクールによる不登校支援」

【コーディネーター】

会沢 信彦 氏(文教大学教授)

オンライン交流会 17:00～18:00

コロナ禍の中、私たちは日常の何気ない会話や他愛のないおしゃべり、笑顔や笑い声がどれだけ私たちの生きる活力になっていたかを再認識しました。本交流会は、対話と共感の姿勢、そして、かかわりを大切にした学校教育相談を学ぶ者同士の仲間との感情交流や共感の場、生きる勇気とエネルギー補充の機会にしたいと願い企画したものです。リモート開催となりますが、参加者同士のつながりが実感できる内容を考えています。

参加は希望制です。人数把握の必要から、申し込み時に交流会参加の有無をお知らせください。交流会は、ブレイクアウトルームを活用して、研修委員がコーディネーターとなり、話したいテーマを設定し、フリートーキングで参加者同士の交流を深めていきます。温かいつながりを感じていただける交流会にしたいと考えています。会員も会員でない方も、どうぞお気軽にご参加ください。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

◆参加費

参加区分	参加費
学校カウンセラー（学校カウンセラー・スーパーバイザーを含む）	3,000 円
その他の学会員	4,000 円
ガイダンスカウンセラーおよび構成団体有資格者 ※学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、カウンセリング心理士、 臨床発達心理士。	4,000 円
一般	5,000 円
学生（社会人学生は除く）	3,000 円

◆申込方法

参加申込は、学会ホームページ (<https://jascg.info/>) の中央研修会「申込リンク」よりお申込みください。電話、郵送、FAX での受付は行っていません。

※お申込みが正常に完了しますと、数分以内にご登録のメールアドレス宛に「受付完了」メールが自動で届きます。メールには、お申込み内容が記されておりますのでご確認ください。

※自動返信メールが届かない、文字打ち間違えなどございましたら、再度お申込みされずに下記問合せ先へ、メールにてご連絡ください。

◆申込期間

2023 年 10 月 27 日（金）正午～2023 年 12 月 27 日（水）正午

※申込は先着順です。定員に達した場合、受付期間中でも受付を終了する場合があります。

※申込期限後の受付は一切出来ません。

◆参加費お支払方法

参加お申込み後に、収納代行会社の「(株)電算システム」より、払込書ハガキをご登録の住所宛に郵送されます。払込書ハガキに記載の期限までにお振込みください。最寄りのコンビニまたは郵便局よりお振込みいただけます。

◆注意事項

- ・ 入力情報の打ち間違えには、十分ご注意ください。特にメールアドレスを打ち間違えますと、受付完了メールやその後のご案内が届かなくなります。
- ・ メールアドレスは、来るだけ PC 用のメールアドレスをご登録ください。キャリアメール (@docomo.ne.jp、@ezweb.ne.jp、@softbank.ne.jp など) をご利用の際は、jascg-chuokenshu@heibun.co.jp が受信できるよう必ず設定をお願いします。
- ・ 参加申込をされた方でも、期限までに参加費の振り込みがない場合は、自動的にキャンセルとなりますのでご注意ください。払込書ハガキに納入期限が明記されています。
- ・ 期限までに参加費を納入された方には、2023年1月18日（木）に、中央研修会参加のIDとパスワード及び事前配付資料等をメールにてお送りいたします。

問合せ先

日本学校教育相談学会中央研修会受付サポート係（平文社内）

jascg-chuokenshu@heibun.co.jp